

和歌山の留学生

# きのくに





03

## 寄稿文 | 留学生から

### 「マダガスカル：私の故郷はこんな国」

和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 3年  
ラミニリナ アントニオ（マダガスカル）

### 「常夏のマレーシアから四季の和歌山へ — 私の毎日は大冒険！」

和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科 4年  
アイヌル マルディア ビンチィ マディヒ（マレーシア）

### 「留学 — 世界との出会い」

近畿大学生物理工学部 医用工学科 3年 潘 雲熙（中国）

### 「出会いの中で見つけた居場所 — 和歌山での四年間 —」

和歌山大学 経済学部 4年 蔡 宜庭（台湾）

07

## 寄稿文 | 国際交流を考える

### 「参加する」国際交流へ

和歌山大学 教育学部 4年 時田 晃輔（日本）

08

## 留学生との交流行事

14

## 調査と統計

和歌山地域の留学生受入状況

和歌山地域留学生の推移

16

## 協議会事務局より

事業報告

要項／申合せ事項

# 「マダガスカル：私の故郷はこんな国」

和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 3年  
 ラマミニリナ アントニオ  
 (マダガスカル)

皆さん、こんにちは、トニと申します。マダガスカル出身で、私の故郷はアフリカ南東に位置する島国です。日本からは約1万1500km離れており、飛行機ではエチオピアと韓国を經由して丸一日ほどかかります。

マダガスカルと聞くと、多くの人がバオバブの木、映画「マダガスカル」、そして左右に走り回る小さなキツネザルを思い浮かべるでしょう。



バオバブは高さ30mにも達し、千年以上生きるものもあり、私達の文化では長寿と成長の象徴です。映画「マダガスカル」に登場する動物の多くは、実際にはアフリカ大陸に生息しており、マダガスカルにいるのはキツネザルとその天敵であるフッサだけです。

気候は地域によって大きく異なり、11月から4月は暑く湿った雨季、5月から10月は涼しく乾燥した乾季です。この多様な気候が豊かな生態系を生み出しています。南部では、気温が35℃を超えることもあります。中央高地は冬でも15~20℃ほどで、日本のような厳しい寒さはありません。

マダガスカルの人々は、マレーシアやインドネシ

アから渡ってきたオーストロネシア系と、アフリカのバントゥー系が混ざり合った独特の民族構成です。また、人口の約42%が15歳未満という非常に若い社会です。

言語文化面においては、1896年から1960年までのフランス統治により、キリスト教が広まり、フランス語が第二言語として定着しました。食文化では、米が主食で、儀式はインドネシアに近い要素が見られます。一方で、ゼブ牛の飼育や葬儀の習慣、言語にはアフリカ的な特徴が残っています。

マダガスカルは、農村部が全体の約80%を占めています。農業資源が豊富で、世界のバニラの約80%を生産しています。しかし、加工産業の不足や通貨価値の低さから、原料は安く買われ、海外で加工されて高値で販売されるという課題があります。

それでも、マダガスカルの自然は本当に素晴らしいものです。白い砂浜、深い森、壮大な溪谷、そして世界にここだけの動植物。日本と同じ島国でありながら、まったく異なる魅力が広がっています。



# 「常夏のマレーシアから四季の和歌山へ — 私の毎日は大冒険！」

和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科 4年

アイヌル マルディア ビンチィ マディヒ  
(マレーシア)

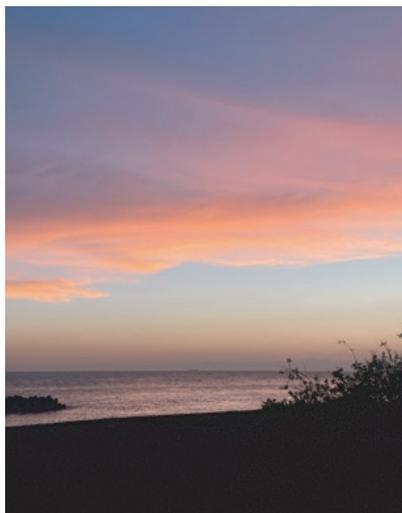
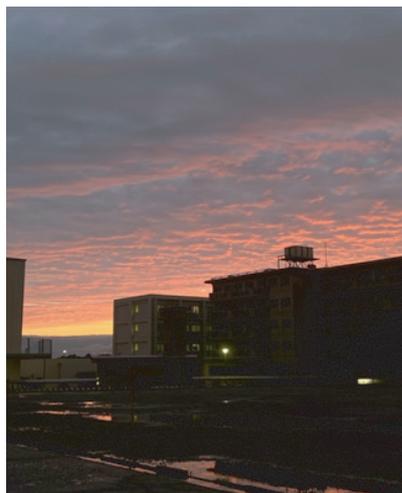
私は一年中暑い、常夏の国、マレーシアから来た留学生です。現在、和歌山高専で学んでいます。マレーシアには四季がなく、ほとんど毎日夏の気候です。そのため、日本に来て初めて春夏秋冬を体験しました。初めて見た桜は本当に感動的で、「日本に来たんだ!」と実感した瞬間でした。

日本に来る前は、「授業についていけるかな」「友達ができるかな」と不安でいっぱいでした。特に専門科目を日本語で理解することは想像以上に大変でした。先生の説明を聞きながら、頭の中でマレー語や英語に変換していると、次のスライドに進んでしまうこともありました。しかし、クラスメートが「大丈夫?」と声をかけてくれたり、ノートを見せてくれたりして、本当に支えられました。

時々、ホームシックになることもあります。そんなとき、私は校舎の近くから見える和歌山のきれいな夕日を見に行きます。和歌山の夕焼けは本当に美しく、空がオレンジ色に染まる景色を見ると、不思議と心が落ち着きます。静かな時間の中で夕日を眺めていると、「ここで頑張ろう」と前向きな気持ちになれます。夕日は、私にとって小さな癒やしであり、心の支えです。

また、日本の生活は新しい発見の連続です。冬の寒さに驚いたり、自動販売機の多さに感動したりしました。時々、マレーシアの伝統料理「ナシレマ」が恋しくなることもありますが、日本の食べ物もとてもおいしく、毎日が新しい挑戦です。

留学生活は楽しいことばかりではありませんが、その経験すべてが私を成長させてくれています。常夏の国から来た私の和歌山での毎日は、小さな大冒険の連続です。



# 「留学 — 世界との出会い」

近畿大学生物理工学部 医用工学科 3年

潘 雲熙  
(中国)

日本への留学は、私にとって、ただの学びの旅ではなく、世界と自分自身との、かけがえのない出会いでした。医用工学という専門分野を学ぶために異国の地に足を踏み入れ、言葉も文化も生活スタイルもすべてが新しい環境の中で、数々の成長を経験することができました。

大学では、医療と工学が融合する医用工学を専攻し、専門的な知識を体系的に学びました。講義や実験、グループでの研究活動を通して、技術がどのように人々の役に立つのかを日々考えるようになり、学ぶことの楽しさと深さを実感しています。専門分野に対する理解を深めるとともに、異国の地で自ら考え、行動する力も少しずつ養うことができました。学びに集中する日々の中で、学外の活動を通じてさらに視野を広げたいと考え、私は万博でのボランティア活動に参加しました。初めは日本語力や環境への不安が大きかったですが、活動を通して国内外から集まった多くの方々と出会い、共に働き、交流を重ねることができました。現地の方々からは親切に助けていただき、困ったときにはすぐに手を差し伸べてくださる方々にも恵まれました。同じボランティア仲間と助け合いながら活動する中で、言葉の壁を超えた信頼と絆を感じることができ、人と接することの喜び、支え合うことの尊さを心から学ぶことができました。異文化の中で生まれる温かなつながりは、留学生活の中でかけがえのない大きな収穫となりました。

日本での留学生活を通じて得たものは、専門知識や語学力だけではありません。異なる文化を柔軟に受け入れる心、自らの力で問題を解決していく力、そして世界中の人々とつながれる貴重な経験。これらの経験は、私の視野を大きく広げ、人としての豊かさを育んでくれました。

留学は、ただ海外で学ぶ時間ではなく、世界と

つながり、自分自身を見つめ直す大切な旅になりました。日本で過ごした日々、学んだこと、出会った人々、経験したすべてのことを大切に胸に刻み、これからも穏やかに学び続けていきたいと思います。

私の留学は、まさに世界との、優しく美しい出会いだったのです。



# 「出会いの中で見つけた居場所 — 和歌山での四年間 —」

和歌山大学 経済学部 4年

蔡 宜庭

時間が経つのが早く気づけ大学生生活も残り3か月となった。振り返ってみると、和歌山での四年間は、様々な価値観や人々との出会いを通じて、自分自身の立ち位置を探し続けた日々だった。

日本に来たばかりの頃は、生活習慣の違いや言葉の壁に苦労した。「郷に入っては郷に従え」という言葉を意識すぎて、自分の考えを抑え、自分を否定してしまうことがあった。しかし、同級生や各国からの留学生、そして地域の方々との出会いによって、少しずつ自分の居場所を見つけることができ、留学生活はぐっと楽しく、充実したものへと変わっていった。

特に和歌山のNPO団体「WIN コンコード」との出会いは大きかった。30年以上にわたり留学生を支え続けている団体であり、その姿勢にとっても感心した。メンバーの方々にはたくさんお世話になり、和歌山の文化や歴史だけではなく、それぞれの人生経験からも多くのことを学ばせていただいた。いつも

温かく接してくれるWINのメンバーの皆様には、感謝の気持ちがいっぱい。

また、他の留学生と友達になれたことも、私にとって大きな宝物である。価値観の違いからぶつかることもあったが、自分にはない考え方を知ることができたのは、とてもうれしい経験だった。今では、母国に帰った人もいれば、日本で働いたり進学したりしている人もいるなど、仲間たちはそれぞれの道を歩んでいる。久しぶりに会うと、皆が自分らしく頑張っている姿を見ることができ、それが何よりもうれしい。

このように、優しい人々に恵まれた環境で成長できたことは、本当に幸運だったと思う。和歌山での4年間は、出会った方々から多くのことを学びながら自分の居場所を見つける旅でもあった。ここで得た学びと絆は、これからの人生においてもきっと私を支え続けてくれると信じている。



# 「参加する」国際交流へ

和歌山大学 教育学部 4年

時田 晃輔

(日本)

私は和歌山大学の交換留学制度を利用し、アメリカの西フロリダ大学に1年間留学しました。ビーチやトレイル（自然観察路）が身近にある、自然に恵まれた広大なキャンパスは、初めて見たとき強い印象を受けました。文学・心理学・教育の授業を中心に履修し、日本とは異なる視点や学びの進め方に触れました。

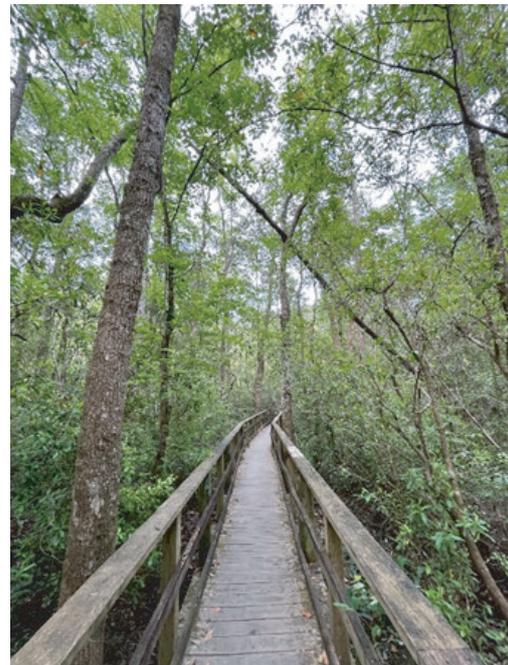
「留学」や「国際交流」と聞くと、語学力の向上や華やかな交流イベントを想像しがちです。しかし私の留学は、思うように言葉が通じず、授業や会話に「参加できない」悔しさから始まりました。言語の壁はそのまま参加の壁になり、自分の意見があっても輪の外に置かれる感覚を経験しました。

ただ、そこで学んだのは「海外にいるだけでは適応できない」という現実です。それを実感してからは、毎日の講義を録音して聞き直し、ディスカッションでは事前に要点を整理しておき何かを発言するようにしました。小さな行動の積み重ねが少しずつ自信となり、最終的には様々な役割と人とのつながりを得ることができ、安心して過ごせる環境を自分で作ることができました。「環境が自分を変えてくれる」というよりは、自分がどう行動して環境にアプローチしていくかが適応の要になるのではないかと思います。

さらに、アメリカの大学で日本語チューターとして教える側に立ったとき、英語は自分の思いを表現するだけでなく、相手の不安を軽くしたり、背中を押したりするためにも使えるのだということに気がきました。そして、教える経験を重ねる中で、自分の原動力が「誰かの力になりたい」という思いにあると確信し、和歌山で教員を目指す決断につながりました。

国際交流とは、文化を知る以前に、互いが安心して自分らしくいることができる場所を築く営みだと思います。今後は和歌山県で教員となり、多様性

を尊重し、留学生や海外に関心を持つ子どもたちが挑戦しやすい教室づくりに貢献していきたいと考えています。



## 令和7年度留学生交流活動行事（事業）



令和7年 4月	春の新入留学生オリエンテーション 和歌祭御船歌・唐人衣装披露 春の新入留学生歓迎交流会
5月	留学生見学旅行「バスで行く神戸日帰りツアー」
6月	多言語サロン 2025 前期
7月	メキシコ和歌山県人会子弟来訪 短期交流学生受入プログラム（タイ・マハーサラカーム大学） 短期交流学生受入プログラム（中国・山東師範大学訪問団） 藤戸台小学校5年生との交流授業 短期交流学生受入プログラム（LIUC） 短期交流学生受入プログラム（サマープログラム） 国際同窓ネットワーク・インドネシア結成式 在外和歌山県人会 次世代リーダーズの来訪
8月	第17回留学生による作文コンクール
9月	日本語・日本文化研修留学生 修了式
10月	秋の新入留学生オリエンテーション 秋の新入留学生歓迎交流会 キワニスクラブ贈呈式 インド光の祭典「ディワリ」イベント
11月	BINUS 大学学生来訪 多言語サロン 2025 後期
12月	有田市フィールドワーク 第23回学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト
令和8年 1月	中南米子弟来訪 橋本高校との交流授業
2月	留学生のお別れ会 2025年度太地町フィールドワークプログラム ウィンタープログラム

# 留学生との交流行事

## 令和7年度留学生交流活動行事（事業）



▲和歌祭



▲留学生見学旅行「バスで行く神戸日帰りツアー」



▲短期交流学生受入プログラム（サマープログラム）



▲第17回留学生による作文コンクール



▲秋の新入留学生歓迎交流会



▲多言語サロン 2025 前期



▲第23回学長杯「留学生による日本語スピーチコンテスト」



▲短期交流学生受入プログラム（LIUC）

# 留学生との交流行事

■令和7年度留学生交流活動行事（事業）

## 和歌山工業高等専門学校

令和7年 4月	留学生ガイダンス
5月	御坊市ロータリークラブ主催 御坊市内観光および夕食会
7月	留学生スピーチ大会
10月	留学生研修旅行
11月	高専祭参加（模擬店開催）
12月	留学生と日本人寮生の文化交流会
令和8年2月	御坊市ロータリークラブ主催 交流会（2回）



▲留学生ガイダンス



▲留学生スピーチ大会



▲留学生研修旅行



▲高専祭参加（模擬店開催）

## 高野山大学

令和7年 4月 | 新入留学生オリエンテーション

## 近畿大学生物理工学部

令和7年 4月 | 留学生オリエンテーション（新入生 + 在学生）

## NPO 法人 WIN コンコード

令和7年3月	新入生歓迎お花見 加太運動広場
5月	日帰り旅行 有田川町清水 和歌祭り渡御行列支援 第17回NPO法人WINコンコード総会留学生スピーチ
7月	京丹後周辺研修 丹後縮緬博物館 花火大会 浴衣着付け教室
8月	ぶんだら踊り支援 浴衣体験 白浜観光
9月	高野山研修 日研生送別会 奈良観光 後期新入生歓迎会 日研生、交換留学生等
10月	日本舞踊鑑賞「名月に舞う」 淡路島観光「イングランドの丘」
11月	日本舞踊体験 第1回日本語カフェ
12月	「第23回学長杯留学生によるスピーチコンテスト」奨励賞贈呈 八朔狩り・忘年会
令和8年1月	初詣 新年会「紀州天満宮」「玉津島神社」
2月	第2回日本語カフェ
3月	県内世界遺産研修「那智の滝」「高野山」 卒業生を祝う会



▲新入生歓迎お花見 加太運動広場



▲日帰り旅行 有田川町清水

# 留学生との交流行事

■令和7年度留学生交流活動行事（事業）



▲ぶんだら踊り支援 浴衣体験



▲白浜観光



▲日研生送別会



▲淡路島観光



▲イングランドの丘



▲舞踊体験



▲忘年会



▲八朔狩り

# 留学生との交流行事

■令和7年度留学生交流活動行事（事業）

## 和歌山国際ボランティア組織 KNOW

令和7年 10月	第35回外国人による日本語スピーチ大会
令和8年 2月	新春国際交流パーティー
3月	和歌山城でそうじ&お花見（予定）



▲第35回外国人による日本語スピーチ大会



▲新春国際交流パーティー

# 和歌山地域の留学生受入状況

令和7年10月1日現在

国名(地域)		大学等名	和歌山大学	和歌山県立医科大学	高野山大学	近畿大学 生物理工学部	和歌山信愛短期大学	和歌山工業 高等専門学校	合計
アジア	中国		103	6	14	29	0	0	152
	台湾		4	0	1	0	0	0	5
	韓国		9	0	0	0	0	0	9
	モンゴル		1	0	0	1	0	1	3
	ベトナム		7	0	1	1	0	0	9
	インドネシア		4	0	0	0	0	0	4
	マレーシア		20	0	0	0	0	3	23
	タイ		4	0	0	0	0	1	5
	カンボジア		1	0	1	0	0	2	4
	フィリピン		1	0	0	0	0	0	1
	ブルネイ		1	0	0	0	0	0	1
	インド		1	0	1	0	0	0	2
	パキスタン		2	0	0	0	0	0	2
ミャンマー		0	0	0	0	2	0	2	
中東	イスラエル		1	0	0	0	0	0	1
欧州	イギリス		1	0	0	0	0	0	1
	フランス		1	0	0	0	0	0	1
	イタリア		1	0	0	0	0	0	1
	ウクライナ		1	0	0	0	0	0	1
	ウズベキスタン		7	0	0	0	0	0	7
	ポーランド		2	0	0	0	0	0	2
アフリカ	チェコ		1	0	0	0	0	0	1
	マダガスカル		2	0	0	0	0	1	3
	ジンバブエ		1	0	0	0	0	0	1
	コートジボワール		0	1	0	0	0	0	1
	エジプト		0	1	0	0	0	0	1
	チュニジア		0	0	0	0	0	1	1
合計 (27カ国)			176	8	18	31	2	9	244
留学費用別内訳	国費留学生	国費留学生	23	0	0	0	0	5	28
		私費留学生							
		外国政府派遣留学生	19	1	0	0	0	4	24
		交換留学生	41	0	0	0	0	0	41
		県費留学生	0	0	0	0	0	0	0
	上記以外留学生	93	7	18	31	2	0	151	
合計			176	8	18	31	2	9	244

## 和歌山地域の留学生推移

	全国5/1	県全体 10/1	和歌山大学	和歌山県立 医科大学	高野山大学	和歌山工業 高等専門学 校	近畿大学 生物理工学 部	和歌山信愛 女子短期大学	近畿大学 青鞞短大
平成3年	45,066	33	25	3	1	4	0	0	0
平成4年	48,561	41	29	7	1	4	0	0	0
平成5年	52,405	55	40	8	3	4	0	0	0
平成6年	53,787	76	58	9	3	5	0	0	1
平成7年	53,847	78	58	9	3	5	0	2	1
平成8年	52,921	76	59	8	1	6	0	2	0
平成9年	51,047	78	55	12	4	7	0	0	0
平成10年	51,298	75	53	13	3	6	0	0	0
平成11年	55,755	86	71	9	1	5	0	0	0
平成12年	64,011	93	75	12	1	4	1	0	0
平成13年	78,812	103	80	17	2	3	1	0	0
平成14年	95,550	123	96	18	3	4	2	0	0
平成15年	109,508	138	110	18	3	5	2	0	
平成16年	117,302	173	143	20	3	6	1	0	
平成17年	121,812	178	147	18	3	9	1	0	
平成18年	117,927	180	150	16	3	10	1	0	
平成19年	118,498	170	138	18	1	12	1	0	
平成20年	123,829	174	140	18	1	14	1	0	
平成21年	132,720	186	151	15	1	16	3	0	
平成22年	141,774	180	147	13	1	15	4	0	
平成23年	138,075	178	151	6	1	16	4	0	
平成24年	137,756	201	177	13	1	8	2	0	
平成25年	135,519	215	201	4	0	9	1	0	
平成26年	※184,155	228	206	8	3	8	3	0	
平成27年	208,379	207	186	5	3	8	5	0	
平成28年	239,287	176	150	4	6	8	8	0	
平成29年	267,042	174	137	7	14	7	9	0	
平成30年	298,980	204	156	6	26	8	8	0	
令和元年	312,214	216	171	7	21	9	8	0	
令和2年	279,597	172	124	8	21	10	9	0	
令和3年	242,444	200	151	7	17	11	14	0	
令和4年	231,146	214	169	8	12	10	15	0	
令和5年	279,274	226	170	9	14	10	23	0	
令和6年	336,708	219	162	7	16	10	24	0	
令和7年	未掲載	244	176	8	18	31	9	2	

※平成26年度より高等教育機関及び日本語教育機関における総数を本調査における留学生数としている。  
 (独立行政法人日本学生支援機構ホームページ記載  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/index.html))

## ■事業報告

広報誌「きのくに」第35号を発行し、ホームページへ掲載した。学生の寄稿文及び各種調査統計について、当協議会所属団体のご協力を得て、結果を掲載した。

## ■和歌山地域留学生等交流推進協議会要項

### (趣旨及び目的)

第1 和歌山県内における外国人留学生等の円滑な受け入れの促進及び地域との交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため、和歌山地域留学生等交流推進協議会（以下「協議会」という。）を置く。

### (事業)

第2 協議会は、第1に掲げる目的を達成するため、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生の受入れの推進
- (2) 留学生の勉学条件及び生活環境の整備
- (3) 留学生と地域住民との交流の推進
- (4) 地域住民に対する啓発
- (5) その他協議会の目的達成に必要な事業

### (組織)

第3 協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 和歌山県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び留学生国際交流関係団体のうちの関係機関 団体の長又は代表者 各1名
- (2) 学識経験者若干名
- 2 前項の委員は、議長が委嘱する。
- 3 第1項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

### (議長)

第4 協議会に議長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、協議会を招集する。
- 3 議長の任期は、4月1日より2年間とし、再任を妨げない。

### (委員以外の者の出席)

第5 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を協議会に出席させることができる。

### (運営委員会)

第6 協議会の円滑な運営を図るため、協議会の下に和歌山地域留学生等交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) 第3の第1項第1号に定める機関 団体から推薦された実務担当責任者各1名
  - (2) その他協議会が必要と認めた者 若干名
- 3 前項の委員は、協議会議長が委嘱する。
- 4 第2項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 5 運営委員会に委員長を置き、協議会議長が指名する者をもって充てる。
- 6 委員長の任期は、4月1日より2年間とし、再任を妨げない。

## (事務)

第7 協議会及び運営委員会の事務は、国立大学もしくは地方公共団体等が担当する。

## (雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、協議会及び運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附 則

この要項は、平成2年2月13日から施行する。

## 附 則

この改正要項は、平成13年4月1日から施行する。

## ■和歌山地域留学生等交流推進協議会に関する申合せ事項

### ● 協議会の運営について

1. 協議会は、年1～2回開催することとする。
2. 協議会には、必要に応じ運営委員会委員の出席を求めるものとする。

### ● 運営委員会の運営について

1. 委員長は、運営委員会を招集し、その議長を務める。
2. 運営委員会は、協議会の事業計画に関する具体的事項について協議するため、適宜開催するものとする。
3. 運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

### ● 協議会議長並びに運営委員会委員長の任期の取り扱いについて

1. 協議会議長並びに運営委員会委員長の出身団体における任期が終了した場合、前任者の残任期間は、出身団体における後継者が、その任にあたる。

## 附 則

この改正事項は、平成13年4月1日から施行する。

